

高等学校

高等学校 保健体育科学習指導案

本時の目標	・がんは、日本人の死因の第1位で、生涯のうちにがんにかかる可能性は二人に一人とされており、年々増え続けている。 そこで、がんは誰もがかかる可能性が高い病気であるため、がんについて関心を持ち、がんの予防について考えさせる。 ・がんの治療には、早期発見・早期治療が重要であることから、早期発見するためには、症状がなくてもがん検診を定期的に受けることやどのような検診があるかを理解させる。				
活動過程	学 習 活 動		時間	指導上の留意点	資料・評価規準等
	導入	本時の学習内容を確認する。 ・がんとは何か ・がんの種類	5	・がんは、誰でもがかかる可能性のある病気であり、がん患者への偏見を招かぬように配慮する。 ・がん発生のプロセスを理解させる。	・スライド資料
	展開	1 わが国及び愛媛県のがんの状況	5	・がんは特別な病気ではないため、自分や家族、身近な人ががんにかかる可能性は高い。正しい知識を持たせるよう留意する。	・スライド資料
		2 がんの予防について (1) グループで話し合いをする。 (2) 発表を行う。 (3) がん予防と偏見	20	・これまで学習してきたがんに対する知識をもとに活発な意見交換をさせ、ワークシートに記入させる。 ・他のグループの発表を聞き、新たに気付いたことをまとめさせる。 ・がんの予防に関する誤った考えに留意させる。 ・早期発見すれば、治る可能性が高いことや早期発見するには定期的に検診を受けることが大切であることを理解させる。	〈知識・理解〉 (評価規準) ○予防法を理解している。 (評価方法) ○ワークシートの記述内容 〈関心・意欲・態度〉 (評価規準) ○自分の考えた意見を積極的に発言している。 (評価方法) ○観察
		3 がんの早期発見とがん検診	10		
整理	本時のまとめを行う。		10	・がんを含めた生活習慣病は、日常生活行動と深い関係があることが理解できたか確認する。 ・がん患者への偏見をなくし、患者への配慮が必要であることを考えさせる。	

ワークシート

○班で積極的に意見を出しましょう。

がんの予防について		

○グループの意見をまとめてみましょう。

--

○他のグループの発表を聞いて、新たに気付いたことを書いてみましょう。

--

○がん予防に関する誤った理解から、どのような偏見が生じると思いますか。

--

○がん患者や家族を含めてみんなが共に暮らしやすい社会にするためには、どんなことが考えられるか書いてみましょう。

--

○授業を通して、理解を深めたり、新しく気付いたりしたことを書いてみましょう。

--

現行の学習指導要領とがん教育の取扱い例(第1学年)

目標	内 容	
健康の考え方	1 私たちの健康のすがた	健康水準の向上 健康水準の向上の背景 健康問題の変化 新たな健康問題
健康の保持増進と 疾病の予防	5 生活習慣とその予防	生活習慣病とは 生活習慣病の予防
	6 食事と健康	
	7 運動と健康	
	8 休養・睡眠と健康	
	9 喫煙と健康	たばこの有害物質 広がる喫煙の害 喫煙開始の要因 喫煙の依存性 健康被害を防ぐ法的取り組み さまざまな喫煙対策
	10 飲酒と健康	アルコール 飲酒の短期的影響 飲酒の長期的影響 飲酒の開始要因 飲酒が引き起こす社会問題 健康被害を防ぐ法的取り組み さまざまな喫煙対策飲酒対策
	11 薬物乱用と健康	
	12 現代の感染症	
	13 感染症の予防	
	14 性感染症・エイズとその予防	
精神の健康	15 欲求と適応規制	
	16 心身の相関とストレス	
	17 ストレスへの対処	
	18 心の健康と自己実現	
交通安全	19 交通事故の現状と要因	
	20 交通社会における運転者の 資質と責任	
	21 安全な交通社会づくり	
応急手当	22 応急手当の意義とその基本	
	23 心配蘇生法	
	24 日常的な応急手当	

がん教育の具体的内容

- ア がんとは
- イ がんの種類とその経過
- ウ 日本におけるがんの状況
- エ がんの予防(について)
- オ がんの早期発見、がん検診
- カ がんの治療法

- キ がん治療における緩和ケア
- ク がん患者の「生活の質」
- ケ がん患者への理解と共生

特別活動

・ア～ケの内容を適宜関連付けて、理解できるようにする。またそれぞれの内容を関連付けて、一次予防(生活習慣の改善等)、二次予防(がん検診等)、三次予防(治療や緩和ケア等)について理解できるようにする。
・現在及び将来直面するがんに関する課題に対して、適切な思考・判断を行い、自らの健康管理や健康的な生活行動が選択できるようにする。

現行の学習指導要領とがん教育の取扱い例(第2学年)

目標	内 容	
生涯の各段階における健康	1 思春期と健康	
	2 性意識と性行動の選択	
	3 結婚生活と健康	
	4 妊娠出産と結婚	
	5 家族計画と人工妊娠中絶	
	6 加齢と健康	
	7 高齢者のための取り組み	
保健・医療制度及び地域の保健・医療機関	8 保険制度その活用	
	9 医療制度とその活用	医療の供給 医療保険の仕組み 医療機関とその役割 医療サービスの活用
	10 医療品と健康	
様々な保健活動や対策	11 さまざまな保健活動と対策	
環境と健康	1 大気汚染と健康	
	2 水質汚染と健康	
	3 健康被害防止と環境対策	
環境と食品の健康	4 環境衛生活動のしくみと働き	
	5 食品衛生活動のしくみと働き	
	6 食品と環境の保健と私たち	
労働と健康	7 働くことと健康	働くことと健康のかかわり 働き方の多様化 こんにちの健康問題
	8 労働災害と健康	
	9 健康的な職業生活	

がん教育の具体的内容

ア がんとは
イ がんの種類とその経過
ウ 日本におけるがんの状況
エ がんの予防(について)
オ がんの早期発見、がん検診
カ がんの治療法

キ がん治療における緩和ケア
ク がん患者の「生活の質」
ケ がん患者への理解と共生

特別活動

・ア～ケの内容を適宜関連付けて、理解できるようにする。またそれぞれの内容を関連付けて、一次予防(生活習慣の改善等)、二次予防(がん検診等)、三次予防(治療や緩和ケア等)について理解できるようにする。
・現在及び将来直面するがんに関する課題に対して、適切な思考・判断を行い、自らの健康管理や健康的な生活行動が選択できるようにする。

ホームルーム活動指導案					
年月日	平成〇〇年〇〇月〇〇日(〇)第〇時限				
年次組	1年	教室		指導者	
主 題	「生きる」とは～がんの学びを通じて～				
主 題 設定の 理 由	「生きる」ということについて、日常で意識になることは決して多くない。そこで、自身の命と向き合うがん患者の内面と生徒とを向き合わせることで、がん患者の抱える思いに深く共感させると共に、「生きる」ことについて主体的に考えさせたいと思い、この主題を設定した。				
指導の ねらい	1 がん患者やその家族との望ましい関わり方について考えさせる。 2 がん患者の思いを通じて、自分たちの「生きる」ことについて主体的に考えさせる。				
事前の 準 備	1 ワークシートとスライド資料を準備し、係生徒の事前指導をしておく。 2 がんに関する問いを考えさせておく。				
活 動 過 程	活 動 内 容		時間	指導上の留意点	資料等
	導 入	本時の主題と目標を確認する。	3	・提示された主題について、クラス全員で真剣に考える時間であることを意識させる。	・プロジェクタ
	展 開	1 がんの現状と問題を確認する。	5	・がんそのものの症状だけでなく、それに伴う患者の精神的悩みの存在に気付かせる。	・〇〇〇 (作者) 『〇〇〇〇』 ・ワークシート ・ホワイトボード
		2 視覚教材『〇〇〇〇』の様々な場面を読み、がん患者の思いや行動を考える。	30	・『〇〇〇〇』の様々な場면을係生徒に朗読させクラス全体で真剣に聴かせる。 ・事前に考えたワークシートの内容をもとに、自分たちがとるべき行動を班で話し合わせ、発表させる。	
		3 がん患者の言葉の内容を考える。	5	・がんになることは決して負の側面だけではないことに気付かせる。	
	整 理	本時のまとめを行う。	7	・がんを他人事として捉えず、「生きる」ことを今後より深く考えていく必要があることを認識させる。	スライド資料
評価の 観 点	1 がん患者への共感を通して、自己の生き方について主体的に考えることができたか。 2 様々な問いに対して、友人と協働的な姿勢で考え合うことができたか。				
備 考	視覚教材については、各校の選定による。				

「生きる」とは何か～がんの学びを通じて～

氏名（ ）

○メモ（授業の内容を書き留める）

問1 もしあなたが、がんであると診断されたらどうしますか。

問2 知人の立場でお見舞いに行ったら、がん患者に対してどのような行動や言葉掛けをしますか。

○感想（あなたにとっての「生きる」意味とは何ですか？）